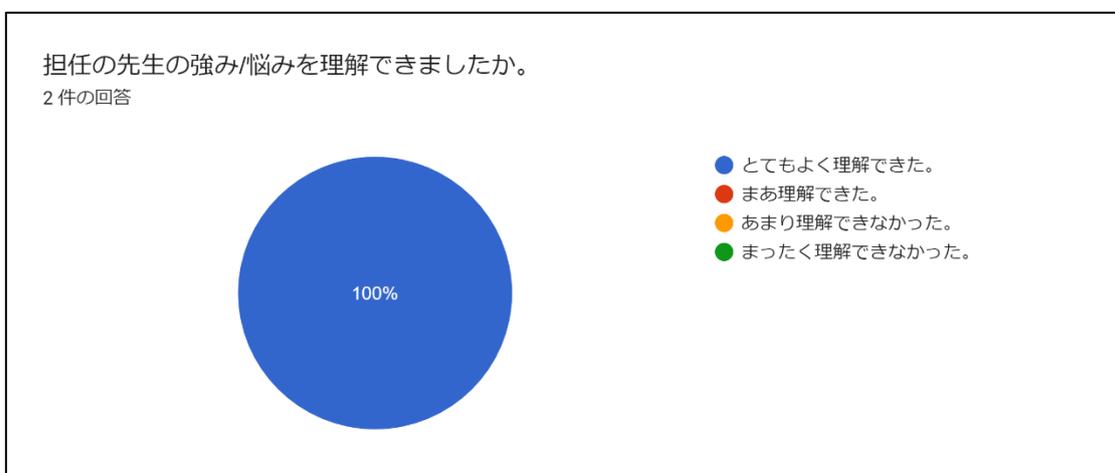
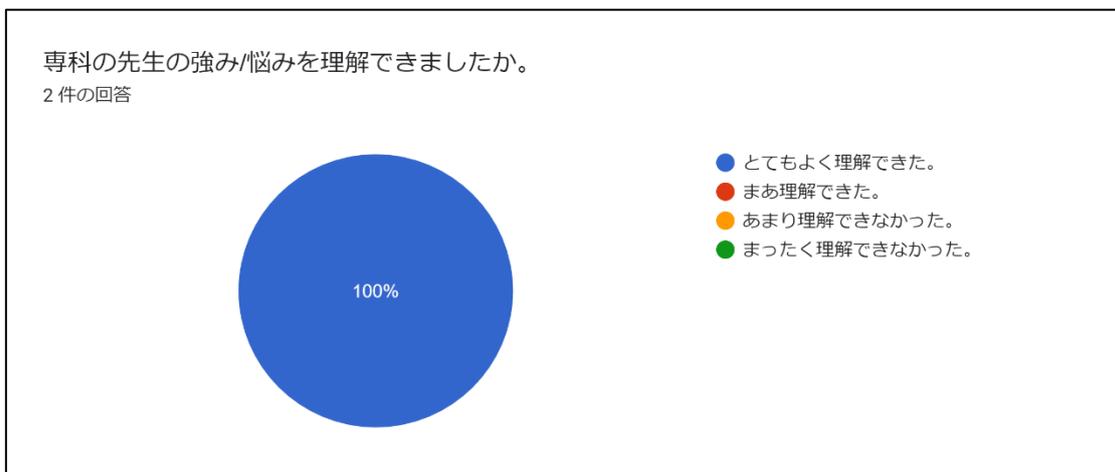


第3回講座 ティームティーチングの進め方(10/18 配信)の振り返り

(2名回答:今後送信されるものと期待しています)



本講座に関して感想を書いてください。

- ①学級担任の強み、不安。専科の強み、不安。の内容に関して、そういった事例だけではないので、温度差を感じました。低学年の言語活動に、目的・場面・状況を設定した授業例も教えて欲しいです。アルファベットは幼稚園で習ったよ！と言い、Z をゼットと読み、V をバイと読んだりします。読みの違いに気づかせるタイミングはどう指導していますか？（リップリーディングにいく過程など）
- ②とても具体的で分かりやすかったです。以前の学校では、JTE(聖子先生)と共に授業を行なっていましたが、現在の学校では担任単独授業のため、悩む部分が多くあります。専科ではなく、学級担任単独での授業におけるポイントなども今後教えていただきたいです。

【担当者の感想】

学校によって、学級担任の先生が指導するところ、専科の先生と担任がTTで教えるところ、あるいは専科の先生が単独で教えるところ、さらに専科+担任+ALTの先生が教えるところなど指導形態は様々です。小学校は授業に関わる先生の名前も文科省の文書に出ているだけでも、①学級担任、②専科教員、③専科加配教員、④外部講師、⑤推進リーダー、⑥中核教員、⑦教科担任、⑧地域人材、⑨ALT、⑩中・高英語教員（中・高から来て小学校で英語指導をする教員）、⑪特別非常勤講師などがあります。また、人によって定義も異なる時もあります。これらの先生方のTTの組み合わせの数は数えきれないほど多いものになります。これほど多様で複雑な指導形態を持っている国は世界でも珍しいのではないのでしょうか。多くの人材が関わることは素晴らしいことです。しかし、「誰が中心に指導すべきか」という方向性を明確に打ち出さないと、多忙な現場の先生方は、今後、どのようにキャリアアップを図っていけばよいかかわからなのではないかと心配しています（杞憂に終わればよいのですが）。Zoomのオンライン研修で、ホンネトークをしたいと思います。